

「みんなが輝ける社会」

小田原市立泉中学校

三年 森本 空夏

あなたは日々ニュースを見ているときになにか感じることはあるか。私はニュースを見ているときに疑問に思ったことがあった。なぜ犯罪・非行をしてしまった人は繰り返して犯罪・非行をしてしまうのだろうかということだ。私はそのような人たちが犯罪を繰り返さないためにはどうしたら良いのかを考えた。

まず私は、犯罪・非行をしてしまう人の特徴を調べた。こういうことを調べるのは初めてだ。だから、難しくて知らない言葉がたくさん目に飛び込んできた。どのサイトにも書いてあった言葉は「個人的要因と環境的要因」だった。個人的要因とは性格や価値観の偏り、環境的要因とは周囲との衝突や普通の生活ができないこと、家庭での問題らしい。

環境的問題なら私たちでもできることがあるのではないかと思った。第一に犯罪をしてしまう人を減らすために私達にできることを考えてみた。「犯罪を減らす」と聞くと、街の見晴らしを良くするとかもっと刑罰を重くするとか、自分たちにはできないことばかり思い浮かべてしまうが、インターネットでもっと調べていくと自分たちにもできることがあるということがわかってきた。私は、人の関わりを深くすれば人は犯罪を起こしづらくなるのではないかと思った。普段からご近所付き合いや会社、学校での友達、先輩後輩との関係を保ち、人からの信頼が感じられればその人を裏切ることはしづらくなるのではないかと思う。

最初私は疑問に思った「なぜ再犯をしてしまう人がいるのか」についてもこのことが言えると思う。一度犯罪をしてしまった人は社会に戻れても冷たい目で見られてしまう。そして居場所がなくなり、犯罪に手を付けてし

まうのだと思った。だから犯罪をしてしまった人を温かい目で普通に接しろ。そう言われても私はそれを普通にできる自信はない。一度でも犯罪をしてしまった人と関わるのは正直少し怖い。無意識ではできないが、意識してでもどんな人も安心していられる居場所を作らなければいけない。

私達だって自分の仲間や信頼できる人に支えられていると思う。学校生活は特にそうだ。私は中学三年生になってそう感じるようになった。志望校選びで相談に乗ってもらえる環境があり、それを応援してくれる人がいる。学校でトラブルがあったら話をきいてくれる先生がいる。この作文を書くにあたっているいろいろなことを調べているうちにそういうことは当たり前なのではないんだと思った。すべての人がそのような愛情をもらうこと、感じることができれば少しでも犯罪に手を付けずまう人が減るのではないか。

私達は恵まれている。そのことを頭の片隅

に置き、自分が犯罪・非行をしないことを第一に、犯罪をしてしまった人がしっかりと更生できるような社会をつくっていかなくてはいけないと思った。犯罪・非行を減らすためには私達の意識も必要だ。